大 竹 伸 朗 殿

宇和島市

■事績

東京生まれの大竹伸朗さんは 1980 年代初めにデビュー。自由な創作活動のため 1988 年に妻の故郷である宇和島市に拠点を移し創作活動をしてきました。絵画、彫刻、映像、インスタレーションから巨大な建造物に至るまで様々なかたちで作品を発表しています。ドイツで行われた世界最大の現代美術の祭典「ドクメンタ 13」(2012)や、世界で最も古い歴史を持つ「ヴェネチア・ビエンナーレ」(2013 年)など、数々の現代芸術の美術展に参加し、国内外で高い評価を得てきました。各地で個展を開催するほか、瀬戸内国際芸術祭にも参加し、アートと銭湯を合体した「直島銭湯 I♡湯／アイラブユ」、島に残る歯科医院兼住居をまるごとアート化した作品等を発表して来ました。

また現在保存修理工事中の道後温泉本館の素屋根のテント膜に鮮やかな色彩で描かれた、ちぎり絵の作品「熱景/NETSU-KEI」は、2021 年の設置以来注目を集め、工事期間中の新たなランドマークとなりました。このテント膜は 2023 年 11 月に撤去されましたが、松山市内の 53 校の小学校に寄贈されます。

2022 年 11 月から 2023 年 9 月にかけては、16 年ぶりに大規模な回顧展を企画し、東京国立近代美術館を皮切りに、愛媛県美術館、富山県美術館でおよそ 500 点の作品を展示。会期中全ての美術館建屋の上に旧「宇和島駅」の駅舎サインを作品化して設営し話題を呼びました。

1995 年 ’95 ブラティスラヴァ世界絵本原画ビエンナーレ金賞、2013 年度芸術選奨文部科学大臣賞、2023 年度毎日新聞芸術賞など数多くの受賞歴があります。